

報道関係各位

2025 年 10 月 21 日

一般社団法人 欧州製薬団体連合会（EFPIA Japan）

EFPIA Day 2025 プレスイベント

EFPIA会長 シュテファン・エルリヒ イノベーション推進と社会保障の持続性の「両立」を目指す 政策の必要性を発表

～EU・日本パートナーシップを通じたイノベーションとアクセスの推進～

EFPIA Japan会長 岩屋孝彦 グローバル薬価政策の変革期における戦略転換の重要性を発表 ～革新的な医薬品アクセスを維持するために～

欧州製薬団体連合会（EFPIA：European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations、本部：ベルギー・ブリュッセル）および一般社団法人 欧州製薬団体連合会（EFPIA Japan）は、本日 10 月 21 日（火）に開催された EFPIA Day 2025 プレスイベントにおいて、欧州および日本における製薬業界を取り巻く環境の改善と薬価制度の改革に向けた迅速な戦略転換の重要性を強調しました。そして、患者さんが革新的な医薬品に迅速にアクセスできるよう、欧州と日本のパートナーシップを強化する重要性を訴えました。

私たちは革新的な医薬品を短期的なコストではなく、人々と生産性への投資として捉えるべきだというビジョンを共有しています。財政的圧力が高まる中、医療システムの長期的な持続可能性を確保しながらイノベーションを加速するため、現在の課題に対処する重要な改革を提唱しました。

■EU・日本パートナーシップを通じたイノベーションとアクセスの推進：EFPIA 会長 シュテファン・エルリヒ

欧州と日本のパートナーシップはイノベーションと医薬品へのアクセスを促進する上で非常に重要な役割を果たします。医薬品のイノベーションは、生活の質を向上させ、人々の寿命を延ばすために不可欠です。しかし、欧州と日本の両方で投資の優先順位が低下しており、このことは私たちがイノベーションを提供する能力に多大な影響を与えています。さらに、製薬業界は著しい経済成長を促進するための独自のポジションにあります。

投資の優先順位の低下は、高齢化社会や医療費の増加など、さまざまな政治的および社会的要因によって影響を受けています。製薬業界におけるステークホルダー間の協力は、これらの課題に対処し、患者さんの生活にポジティブな影響を与えるイノベーションを推進するために不可欠です。ヘルスケアとサイエンスのエコシステムを再び活性化するための 3 つの重要なイニシアチブ、3 つの「A」フレームワークを提起します。

1. Attract (誘致)

投資、人材、研究開発におけるイノベーションを呼び込むことに焦点を当て、危機を成長の機会へと転換し、短期的なコスト抑制から長期的価値創造へとシフトする。

2. Accelerate(加速)

卓越したサイエンスを、ヘルスケア・ソリューションへと迅速に転換できるエコシステムを構築し、共通の価値観を活用して革新的な医薬品を患者さんへより早く届ける。

3. Access(アクセス)

日欧両地域の患者さんが迅速かつ格差なく革新的な医薬品の恩恵を受けられるようにすると同時に、イノベーションに対する競争力ある評価を確保する。

■グローバル薬価政策の変革期における戦略転換～日本の医薬品アクセスは守れるか～：EFPIA

Japan 会長 岩屋孝彦

EFPIA Japan は、患者・患者団体との継続的な対話を通じて、健康上の課題を抱えながらも、充実した人生を送り、働き、社会に貢献したいという願いがあることを確認してきました。革新的な医薬品の導入は、単なる病気の治癒にとどまらず、社会全体の健康と経済の向上に貢献する重要な要素となっています。

また、マクロ環境の変化により、医薬品産業としての新しい期待と強い危機感があります。具体的には、政府は医薬品産業を基幹産業としてとらえ、官民協議会を通じてドラッグラグロス問題の解決と産業の国際力強化に向け議論が進んでおり、新政権の積極財政の枠組みの中で、基幹産業としてさらなる投資が行われることを期待しています。

一方で、インフレ下でも薬価が毎年下がり続けており、医薬品産業のデフレ化を防ぐためには新たな財政・薬価制度の見直しが必要です。さらに昨今のグローバルの薬価政策の転換を受け、以前から指摘されてきた日本の薬価制度の課題が、日本の医薬品アクセスに深刻な影響を及ぼす可能性が高まっています。

グローバルと比較した日本市場

日本の医薬品研究開発費の成長率は米国・欧州・中国に比べ低くなっています。そして、世界の医薬品市場における各国の比率をみると、米国・中国はそのシェアを拡大している一方で、日本は大きくシェアを落としています。また、日本は、医療用医薬品の大半を海外から輸入していますが、医薬品承認状況や価格を他国から参照されることは限定的だったこともあり、世界の位置づけという視点を考慮することはあまりありませんでした。しかしながら、グローバル環境が急速に変化する中、今こそ日本も先進国として、世界のイノベーションへの貢献について考えていく必要があります。

提案される改革と解決策

これらの課題に対処するため、いくつかの重要な改革がこれまでも提案されていますが、特に薬価制度については、革新的医薬品に対する価値の評価は自国内に視点を向けるだけでなく、国際的な水準を考慮した地政学的な観点も鑑みることが重要です。欧米主要国において、特許期間中の新薬の薬価を強制的に引き下げられるルールがある国はありません。日本でも、特許期間中の新薬は薬価改定の対象から除外すること、「市場拡大再算定」のルールの見直し、客観的検証なくして「費用対効果評価」の拡大を行わないことを提言します。これらの改革は、イノベーションを促進しつつ、医療システムの持続可能性を確保するための重要なステップとなります。EFPIA Japan はこれらの改革の必要性/重要性をマルチステークホルダーが対話を行う官民協議会などのあらゆるプラットフォームを通じて訴求して参ります。

結論と今後の展望

革新的医薬品への投資は、単なるコストではなく、国民一人ひとりの生活の質や労働生産性を高めて経済に好影響を与え、財政の安定にも寄与する、社会への重要な投資として捉える必要があります。

EFPIAとEFPIA Japanは、イノベーションを守り、公平で持続可能な世界的な医療システムを構築し、革新的な医薬品への迅速なアクセスを確保するという目標で一致しています。私たちは、欧州と日本の製薬業界が直面している重大な課題に取り組むため、すべてのステークホルダーに協力を呼びかけています。

「EFPIA Day 2025 プレス向けイベント」当日の内容

実施日 2025 年 10 月 21 日（火） 場所：イイノカンファレンスセンター RoomA

欧州製薬団体連合会（EFPIA：European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations、本部：ベルギー・ブリュッセル）および一般社団法人 欧州製薬団体連合会（EFPIA Japan）は、10 月 21 日（火）「EFPIA Day 2025 プレス向けイベント」を開催いたしました。イベントでは、EFPIA 会長シュテファン・エルリヒと、EFPIA Japan 会長 岩屋孝彦の講演ならびに、東京大学大学院薬学系研究科 医療政策・公衆衛生学 特任准教授五十嵐 中 氏をお招きし、『「骨太 2025」に追加された「費用対効果評価の客観的検証」の必要性和理解の促進』として特別講演をいただきました。

■一般社団法人 欧州製薬団体連合会（EFPIA Japan）について (<http://efpia.jp/>)

2002 年 4 月に設立された EFPIA Japan には、日本で事業展開している欧州の研究開発志向の製薬企業 24 社が加盟しています。2024 年の加盟各社の総売上高は、日本の製薬市場の売上の約 29.4%を占めています。EFPIA Japan の使命は、“革新的な医薬品・ワクチンの早期導入を通じて、日本の医療と患者さんに貢献する”ことです。EFPIA Japan は日本の医療向上に向けて政策決定者との対話を強化することを目指しています。

■欧州製薬団体連合会（EFPIA, European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations）について (<http://www.efpia.eu>)

EFPIA は、欧州で事業を展開するバイオ医薬品産業を代表する団体で、欧州各国の 37 の業界団体、欧州で活動する 40 の大手製薬企業、多数の中小企業（SME）の直接会員により構成されています。新たな治療薬およびワクチンの創薬や研究開発、イノベーション、供給を可能にする環境の構築と、欧州経済への貢献を使命としています。

■報道関係者のお問い合わせ：

- EFPIA Day 2025 広報事務局 担当 斎藤、前田
TEL: 080-8821-6078（斎藤）、070-4303-7426（前田）
E-Mail: efpiaj-pr@kyodo-pr.co.jp
- EFPIA Japan 広報委員会 担当：岡（ルンドベック・ジャパン株式会社）
TEL: 070-7538-5301